ご協力いただける方、募集中です！

ボランティアさん

こどもと遊ぶのが好きな方、事務局のお手伝いを一緒にしてくださる方、お待ちしています。

小児待合室活動日　毎週月曜日・木曜日、第2土曜日・第4日曜日　午前11時～午後2時

※新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更されることがあります。

後援会員さん・ご寄付

この団体の活動は、みなさまの会費とご寄付や助成金で行っています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

後援会員･･･ご入会頂くと「こどものちから通信」をお届けします。

◆個人3,000円/年　◆団体（1口）10,000円/年

ご 寄 付･･･みなさまのあたたかいお気持ちは、
きょうだいさんの笑顔を増やす活動に
大切に活用させて頂きます。

◆〈こどものちから〉の1年は、4月から翌年3月までです（^_^）

お振込先
郵便振替番号:00170-7-571697
口　　座　　名:特定非営利活動法人こどものちから

お問い合わせ・発行元

「特定非営利活動法人こどものちから」事務局
〒136-0073　東京都江東区北砂 5-20-18-211
TEL:080-6867-6135
メールアドレス:tarumifight@yahoo.co.jp
※独立した事務所がございませんので、ご連絡は上記メールアドレスまでお願いいたします。
Facebook:https://www.facebook.com/kodomonotikara
ホームページ:http://kodomono-chikara.org/

〈協力団体〉大原薬品工業株式会社
株式会社ソフトクリエイトホールディングス
クリフォードチャンス法律事務所

たくさんの個人の方々や企業の方々からご寄付を頂きました。
いつもお心に留めていただきありがとうございます。
代表　井上るみ子

NPO法人
こどものちから

病院に連れて来られても病棟に入れないきょうだいさんに
遊んでもらう活動をしています。

今回は夏祭りの一コマをイメージしてみました。
ミケ猫ちゃんは金魚すくいにチャレンジ、それを応援する黒猫ちゃん。
皆さんもコロナ禍ですが楽しい夏を～

＜制作者　スタッフ・さいとう　はるみ＞
No.23　2022.6月発行

藤田浩子さんのおはなし会

2月20日(日)午後2時～4時　江東区男女参画推進センターにて

まだまだ不安な新型コロナウィルス感染症…。
それでもやっぱり藤田さんのかたりに触れたくておはなし会を開催しました。
今回は中央区の会場が予約できなかったため、江東区男女参画推進センターの研修室を2部屋、初めてお借りしました。
50名収容できる会場に感染対策のため、藤田さんの語りが大好きな17名の参加者と17名のボランティアで笑い声の絶えない楽しい時間を過ごすことが出来ました。

1年ぶりに再開する藤田さんは、いつものように気さくに私たちのリクエストに応えてくださったり、身軽に会場を動き回って伝承遊びやあやとりの手ほどきをしてくださいました。そして2時間ずっと立ったままでおはなしや新しい小道具をご披露してくださる藤田さんのパワーに驚かされました。

ボランティアとして参加していた大妻女子大学の学生さん達も素語りの温かさや心地よさ、人との関わり方について熱心に学んでいました。
「久しぶりの藤田先生！！　お元気で嬉しかったです。」
「お手玉も数え唄もたんぽぽの手遊びなども、一編当でなくひとひねりしてやっていく楽しさを自分でも工夫していきたいです。」

「オンラインでは味わえない茶目っ気たっぷりの藤田さん、やっぱりいいですネ！」
「藤田さんとスタッフの皆さんと楽しい時間を過ごせて嬉しかったです。」
「コロナ禍でも多くの遊びが出来る事、人と人とのつながりの大切さを改めて実感することが出来ました。」

「藤田さんが『子どもの喜ぶ顔が見たい一心で新しいおもちゃを作っている。』とおっしゃっていて、素敵だなと思いました。」
などのたくさんの感想をいただきました。
コロナ禍にあって、対面での交流の大切さにさらに気づかされた一日でした。
次回は、2023年2月ごろに開催したいと思っています。また皆さまにお目にかかれるのを楽しみにしております。

活動報告

新型コロナウィルス感染症対策のため、残念ながら院内での活動は現在も休止中です。

◆12月19日(日)　しぶたね主催「東京シブパネル振り返りの会」参加
◆12月23日(木)　第6回オンライン病棟訪問「お話し会＆工作」
◆ 1月17日(月)　昭和会館さまへ、団体活動説明
◆2月20日(日)　「藤田浩子さんのおはなし会」開催
◆4月26日(火)　(株)ジャックス招待、東京ドム野球観戦、参加
◆5月8日(日)　「第10回こどものちから総会」こどものちから事務局にて実施予定でしたが、書面により全員の賛同が得られたため、実施せず終了
◆5月14日(土)　大妻女子大学ボランティア説明会
◆5月19日(木)　難病のこども支援全国ネットワーク主催「プレイリーダー養成講座」講演
◆5月28日(土)　病気のこども支援ネットワーク主催「グリーフケアクッキング教室」参加
◆6月17日(金)　通信23号 発行

今後の予定

◆9月4日(日)　内部研修会
◆10月18日(火)　上智大学「生と死のケアリング・コロキウム」講演
◆10月・11月　　「クリスマス工場」
◆12月16日(金)　通信24号発行
◆「藤田浩子さんのおはなし会」…詳細が決まり次第連絡させていただきます

※新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更されることがあります。
1日も早く収束して、また院内での活動が再開され、
お友だちにあそんでもらえる日が来ることを祈っております。

うれしいお知らせ

活動をご理解・ご支援くださる企業や団体・個人のみなさまから
たくさんのご寄付やご協力をいただきありがとうございます。

◆三菱食品株式会社さま
またまた子ども達に人気のカリンバを頂きました。優しい音色に癒やされています。

◆森のライフスタイル研究所さま
いつもカリンバを中継してくださって　ありがとうございます。

◆チクチク会さま
とってもおいしそうなフェルトのおむすびとたくさんのおりがみの作品を頂きました。
さっそく小児科病棟のお友だちにプレゼントさせて頂きました。

◆一般社団法人昭和会館さま
念願のノートPCと周辺機器をいただきました。
事務局にて使用させていただいております。

2021年度会計報告

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
科目	金額	科目	金額
会費	411,000	病児や兄弟・家族の支援事業	298,658
寄付金	464,263	兄弟支援に関わる情報発信事業	143,715
難病の子ども支援全国ネットワーク	29,976	病児や家族等を対象とした交流事業	127,191
一般社団法人昭和会館	253,858	兄弟支援に関わる勉強会の開催および学びの機会の提供事業	87,540
公益財団法人社会貢献支援財団	500,000	その他目的を達成する為に必要な事業	0
事業収益（イベント参加費他）	24,950	管理部門	462,488
受取利息	15		
雑収入	9054		
合計	1,693,116	合計	1,119,592
		経費外費用（雑損）	0
		当期正味財産増減額	573,524
		前期繰越正味財産増減額	1,673,828
		次期繰越財産額	2,247,352

株式会社ジャックスさまよりご招待「東京ドーム、野球観戦」

大型スクリーンに映ったよ～！

4月26日（火）　東京ドームにて

「北海道日本ハムファイターズ」対「千葉ロッテマリーンズ」戦
3年ぶりに株式会社ジャックスさまから、東京ドームでの野球観戦のお誘いをいただきました。
コロナ禍でもあるため、病棟へのお誘いは遠慮させていただき、今までに参加してくださったお友達に連絡し、9家族35名の参加となりました。
当日は、野球観戦だけではなくて、練習見学ツアー・ベースランニング・スタメンキッズセレモニーの特別なお楽しみイベントも用意されていました。
「ベースランニングという貴重な体験をさせて頂き、親子で思い出を作ることが出来ました。」
「3年ぶりに井上さん・松本さんにお逢いできて嬉しかったです！」

練習見学ツアー

ベースランニング「大人になんか負けないよ～！」

「ひとりでできた！　お土産（サインボール）もらったよ！」
「今回は残念ながら参加できませんでしたが、次回は必ず新庄監督に会いたいです。」
などなどたくさんの感想がありました。
かわいいメッセージカードを書いてきてくれたお友達。
野球観戦をして野球が大好きになったお友達。
3年前、ここで絵日記を書いていたお友達は今年高校受験生になったそうです。
今回はパパと二人で参加してくれたお友達…。
病院以外の場所でしたが、久しぶりに再会したお友達やご家族は、それぞれに心も体も大きく成長していました。
世界中を巻き込んだ新しい感染症への手探りの対策は、闘病とはまた違った緊張感がありました。それでもみなさん、いろいろと工夫されて、日々を過ごされていました。久しぶりの再会に感無量の野球観戦でした。
株式会社ジャックスの皆さま、素敵な時間をありがとうございました。

「やった～！　ボールもらったよ～！」

～「こどものちから」の活動を経験して～

「昼あそび会」「ヤマアソビ　KIDS　CLUB」…青木佑太さんご夫妻
「こどものちから」でお世話になった経験から、地元群馬の小児医療センターでも同じように子ども達の遊び場を作りたいと思い、病院近くの公民館で子どもの遊び場&子ども食堂を始めました。詳細はFacebookを見てくださいね。

「らいちょろCH」…小宮山充さんご夫妻
我が子「らいか」君の名をとり「らいちょろCHぷろと」と言うYouTubeを立ち上げ、趣味の「軽トラキャンピングカー」で楽しみを動画配信しています。収益は息子の闘病中にお世話になった機関に寄付できればと考えています。チャンネル登録お願いしま～す（*^o^*）

「思い」を形にしてくださってありがとうございます。応援しています。

大妻女子大学、ボランティア説明会

5月14日(土)午前10時~12時 大妻女子大学にて

大妻女子大学児童学科1~2年生には、「児童学基礎体験演習」という科目があります。ボランティア活動団体登録をした団体に参加して、「今後の学習や児童教育に活かしていこう」という取り組みです。「こどものちから」は、2015年から7年間、学生さん達の受け入れをしています。

今回は14団体中12団体が、説明会に参加しました。団体活動を説明するために、どの団体もいろいろと工夫していました。「こどものちから」のブースでは、オリジナルテーブルクロスを広げたテーブルの上に、紙芝居風のコラージュや待合室で人気のビヨヨンへびやカリンバなどを準備して、学生の皆さんに見てもらいしました。昨年ボランティア活動に参加してくれた学生さん(2年生)が6名助っ人として参加して、感想を伝えてくれたのは、とっても心強かったです。

残念ながら新型コロナ感染症対策のため、今も病院内での対面活動は、休止中です。けれど内部研研修やクリスマスカード作りを通して、「きょうだい支援」の必要性や様々な環境下でがんばっているこども達がいることを知ってもらえたら、有意義な時間になると期待しています。

看護師の立場から提案

常藤文香

命を育む食の中にお楽しみの「おやつ」があります。最近のマイブームは手作りおやつ。色とりどりでたくさん陳列されたスーパーのお菓子コーナーを横目に、材料コーナーへ。砂糖はこんなに種類があるんだ、小麦粉は国産かな？　米粉も使ってみようかな、とワクワク。黒糖と重曹で作る黒糖まんじゅう、米粉のホットケーキ、ヨーグルトとフルーツの簡単ゼリー。次は、きなこと蜂蜜だけで練り上げるきなこ棒にも挑戦したいな、と懐かしいおやつで昭和トリップを楽しんでいます。

皆さんは、どんなおやつで大きくなったのでしょう？　こどものころ無料でパンの耳をもらいに行くのは長女の私の役目、美味しいパンの耳かりんとうを作ってもらえるなら、と意気揚々と。　普段は、煮干しや硬いイワシせんべいが多く、柔らかいケーキなどの洋菓子は誕生日などの年何回かでしたが、それが丈夫な歯や骨を作り、噛むことによってよく頭を働かせなさい、という親の願いだったのかもしれません。

近年、保育園で勤務していた時、アレルギーの子どもの多さに驚きました。中には17種類だめ、と避ける種類が多く、重症化しやすい子もおり、注射を持参してきていました。ただ、一緒のメニューが食べられないことが可哀想、と思っているのは大人だけで、生まれた時からずっとそうなので、本人は自分の食べ物はこれ、と理解し美味しく食べていた表情には救われました。

また認知症のデイケアでは、笑顔が多いのはやっぱりおやつの時間。そこで認知症予防クッキーをみんなで手作り、ウコンやシナモンなどスパイスで血流を良くする願いも込めて焼き上げました。きっと良くなるわ、と笑いながら。

甘いものは、心に優しく染み入りつい笑顔を誘います。心が落ち着き、お茶を飲んでまた話も弾みます。世代を超えて万人のお楽しみのおやつ。

おうち時間も慣れてきた今、少し手間をかけておやつ時間を楽しんでみませんか？

絵本紹介

静岡県立こども病院医学図書室
塚田薫代

きょう、おともだちができたの

童心社　2018

入園して初めてお友達ができたゆうなちゃん、
ドキドキとちょっぴりの不安は新しい一歩につきものです。
世界が広がっていく様子はとても微笑ましい！
同時に人を思いやる気持ちもはぐくまれるのでしょう。
やわらかなタッチの絵もほのぼのします。

ゆうたはともだち

あかね書房　1988

おともだちは人間とは限りません。動物だって立派なおともだち！
「おまえほんがすき、　おれほねがすき」
「おまえとおれ、　ぜんぜん違う。　だけどともだち」
絶好調のいぬ目線が大好き

どうしてなくの？

偕成社　2021

息子とお母さんの会話をとおして、様々な涙のシーンが出てきます。「ぎゅっとだきしめてほしくてないてしまう日、おとなになるためになく、わたしたちのこころははてしないうみのようなもの、どうしても**あらしはさけられない**　だからなくのかもしれない。ことばで**いいつくせない。**ただなきたくてなくこともあるはず」

美しいイラストとラストが心に静かに沁みてきます。当院のお母さん達に好評です。

～こどものちから事務局より～

静岡県立こども病院図書室で司書として長年こども達と向き合ってこられた塚田薫代さんとの出逢いは、こどものちから設立当初のことです。団体を設立したものの、運営方法や方向性など、どのようにするのが良いのか、迷ってばかりで、具体策が見つかりませんでした。迷い子のような事務局。メンバーの紹介から「本を通してこども達や地域を活性化したい。」という集いが行われ参加しました。そこで巡り逢ったのが、静岡から参加されていた塚田さんでした。「病院に連れてこられても病棟に入れないきょうだいの支援をしたい。」という私たちの思いに賛同して協力を申し出てくださいました。そのころ小児待合室にある絵本は、小児病棟のプレイルームからのおさがりの絵本でした。立ち寄ってくれるお子さんや親御さんに手に取ってもらえる絵本にするために、9年間18回に渡り、通信を通して絵本を紹介していただきました。「見るだけ・眺めるだけで笑える絵本」「年齢に関係なく楽しめる絵本」「心を元気にしてくれる絵本」コロナ禍にあっては「心をコントロールできる絵本」などなど、事務局からのリクエストは、多岐に渡りました。無茶ぶりと思えるようなリクエストに塚田さんはそのたびに真摯に答えてくださいました。おかげさまで小児待合室にある絵本は、立ち寄ってくださる方々の状態に即した、手に取りやすい絵本がそろいました。通信の「絵本紹介」を楽しみにされた方も多かったことと思います。本当に感謝しかありません。このたび、退職を迎えられ通信の「絵本紹介」コーナーは、残念ながらひとたび終了となります。本当にありがとうございました。そしてこれからも関わっていただけますと大変嬉しく思います。

塚田さんから皆さまへのメッセージ　ながらくご愛読ありがとうございました。